

第 4 1 号
2019年 3月31日

○発行
650-0004
神戸市中央区中山手通
7丁目25-38
神戸真生塾広報誌編集係
TEL (078) 341-5897
FAX (078) 341-8239
E-mail:kouhou@kbsinsei-j.org

○振替口座
郵便振替01100-8-18680



「真のつながりの中で生きる」 児童養護施設 神戸真生塾 施設長 上杉 徹

新約聖書ヨハネによる福音書
十五章一節〜五節にて「わたし

はまことのぶどうの木、あなたがたはその枝である。」「人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。」とイエスは語りかけてきます。子どもたちと共に生きる我々の役割はまさにそのぶどう木の枝のように他者につながっていることではないでしょうか。

神戸真生塾でも多くの職員が退所した子どもたちとつながっています。施設の職員は目の前の子どもたちだけでなく、施設を巣立って行った、しかし、なかなか自らの足で立ちにくい子どもたちともつながっています。他者とながついていくこと、そ



れは現代社会のSNSのようなネットでのつながりでなく、人間と人間が向き合い、対峙して、言葉を交わし合い、対話するつながりです。我々はよく「様々な機関と連携する。」と言いますが、この連携も、電話一本やメールだけでは成立しません。出かけて行き、相手とひざを突き合わせて、一つひとつのことをていねいに確認しながら解決に向けて対話していきます。顔の見える関係を構築することが大切となります。神戸真生塾の保育園でも日常の子どもの様子や変化をしっかり見ながら、限られた時間ではありますが、保護者と対話しながら子育てのこと、様々な悩みをお聞きしながら、話し合うことで解決には至らないにしてもつながること、「パツと道が開かれる。」こともあります。

私はこの4月より社会福祉法人神戸真生塾の児童養護施設の施設長の任を仰せつかりました。私と児童養護施設との出会いは三十一年前にさかのぼります。

丁度二月から三月にかけて三週間「インドネシア・ワークキャンプ・キャンパー募集！」という大学の掲示板に貼ってあったポスターに誘われ、このキャンプに参加したことから始まりです。大学生活も後半となり、どの様に生きるのか迷っていた時期でもあり、このキャンプにてキリスト教と出会い、恩師となる先生と出会い、そしてバリ島の児童養護施設の子どもたちとの出会いへと導かれました。このキャンプでの出会いが、その後の私の人生を大きく変えることになる時は思いもありませんでした。当初、いずれかの社会福祉施設で働くつもりであった私は様々な人と出会い、共に歩め、また国際的な活動もできるYMCAの活動に興味を持ち、神戸YMCAにて18年間働かせていただくことになりました。その後、教会生活の中で神戸教会の教会学校の奉仕を通して神戸真生塾の子どもたちと出会いました。インドネシアの子どもたちとはまた異なる課題の中で生きている子どもたちとの出会いから、神戸真生塾が開設する「真生きらきら保育園」へと導かれ12年が経ちました。



退所するけどもから

寺澤 航太

僕は、神戸真生塾に中学三年生の秋の終わりも近い頃に入所し、約四年間過ごしお世話になりました。

四年という年月は長いようで短く感じました。真生塾を出れば、もう一人暮らしになるので行き帰りの出迎えもなく、食事が用意されているなんてこともなくなると考えると少し寂しい気もします。それは、今だからそのように思えますが、最初は施設というのにあまり良いイメージが無く、入所するときに若干自分のなかで抵抗がありました。ですが、そのようなワガママを言える状況でも無かったので、当時の僕は入所することを受け入れました。

入所したての頃は、ちょうど思春期真っ盛りな時期だったということもあり、新しい環境に慣れるのにそれなりに苦労したことを覚えていきます。生活に慣れることに苦労しながらも中学を卒業し、高校へと進学しました。

僕が通っていた高校は四年制の定時制夜間高校だったので朝と昼にアルバイトをし、夜に学校へ行くという生活に変わり、そこでもまた生活環境の変化があり体力面や精神面で多少苦労がありました。そんな高校生活のなかで自分の進みたい進路や将来やりたいことを見つけてこができて、情報関係の専門学校に進学が決まりました。進路決定の際には、真生塾のお姉さんにも色々相談に乗っていただきとても助かりました。

真生塾のお姉さん方は普段から些細なことでも相談したら親身になって聞いてくれるので、とても有難かったです。お姉さん、お兄さん方には普段の生活面で色々心配を掛けてしまい、申し訳ないと思っています。それらを含めて、この四年間とてもお世話になりました。ここで生活をしたことは無駄だったなんてことは決して一ミリも思っていないです。ここで身につけた生活や経験を活かしつつ、これからも頑張っていけます。ありがとうございます。

バレーボール 大会

平成三十年八月二十七日、王子スポーツセンターで行われた、第二十六回神戸市児童養護施設バレーボール大会に参加しました。

ここ数年、部活動やクラブでバレーボールをしている子どもが増え、個々の技術が格段に上がってきていました。その分子ども達もやる気があり、今回こそはメダルを取りたい！という気持ちで意気込んでいました。

施設の体育館はコートが張れるだけのスペースは無いため、今回はしっかりと練習が出来るように近くの公民館の体育館を数回借りて練習することにしました。施設の体育館では基本的な練習、公民館の体育館ではネットを張って声を出し合いボールを繋げる練習をしました。暑い中、疲れるとどうしても暑いがバラバラになってしまいがち、上手く練習ができないこともありました。しかし、本番に近づくとつれ、それぞれがチームを意識するようになり、「みんなまで頑張る！」と気持ちを一つにして本番に臨みました。

やはり本番になると緊張が見られた子どももいましたが、試合では声を出してみんなを繋げ頑張りました。普段からバレーボールをしている子どもが多い為、確実にレベルが上がった試合になっていったと思います。数年前は声も出さず、繋がることもなく、ボールを返すことだけに必至になっていました。今では声を出し、ボールを繋げ、攻めて戦うことも出来ていました。攻めて戦い、点数を取った時はみんなでも嬉しかったです。その結果、負けた試合もありましたが、得失点差で勝ち進み、準決勝まで行くことができました。準決勝の試合の途中は気持ちで負けそうになり、もうダメかと思ふ雰囲気もありましたが、子どもたちが力を振り絞り、切り替えた皆さんの素晴らしいプレーを見ることができました。

(越智七美穂)

今回、みんなの心が丸となり、プレーすることが出来ました。そして、準優勝することができ、とても嬉しかったです。応援して下さいました皆様、どうもありがとうございます。来年度も頑張ります。

三十一年度キャプテン (kちゃん)



クリスマス祝会



児童養護

神戸真生塾で守られ続けているイエス・キリストのご誕生を、来てくださった皆様と共にお祝いすることができましたことを感謝いたします。

前半の礼拝では、本年度も聖誕劇を行いました。緊張しながらもやりきる姿を見せてくれました。配役はそれぞれのしたい役のアンケートを元に決めます。自分がしたい役とは違う



役を、引き受けてくれる子もいました。「一人でも登場する人（動物）がいないと劇が出来ないよ。どの役も大切である」と最初にみんなが集まった日に伝えられると理解してくれている様子の子が何人もいたことが印象に残っています。練習では緊張や恥ずかしさから、声が小さい子、笑ってしまいう子もいましたが、日々練習を積み重ねていくと、声が大きくなっていく、周りの子に教えてあげる、教してもらったことを実行するなど、一人ひとりの変化を感じられました。

後半は、司会者の進行のもと、明るく、楽しい雰囲気で行われました。舞台にいるだけで、「かわいい」の聲が上がる乳児院の子どもたちによる楽器あそび、毎年素敵なハーモニを聞かせてくださる教員合唱団の歌声は、本年も心に沁みるものがありました。養護の幼児たちによるごっこあそびでは、個性が光る姿を見せてくれ、有志の子ども

たちによるヨーヨーショーでは一人ひとりの日頃の成果を見せてくれました。ラストは有志の中高生と保育士らによるダンスです。みんな揃って練習出来ない日もありましたが、当日は見ているみんなも一緒に踊りたくなるような姿を見せてくれました。子どもたちが楽しみにしているサンタの登場ですが、当日来られないサンタに代わり、富川施設長がサンタとして登場しました。見た目ではサンタそっくりでしたが、声を聞くと気づく子どもたちもいたようです。皆様の温かい見守りのもとクリスマス祝会を終えられました。ありがとうございます。

(廣瀬 加恵)

乳児院

本年度も沢山のお客様にお越し頂きクリスマス祝会を執り行うことが出来た事に感謝いたします。毎年クリスマス祝会が近づくと子どもたちと一緒に玄関や居室にツリーを飾り、その日から子ども達はサンタさんが来てくれる日を心待ちにしています。お空を見上げて「サンタさん寒くないかな？」と優しく心配する子どももいます。



祝会のはじまりは年長児3名

による「キャンドルサーブス」です。キャンドルを持ち緊張した顔つきで沢山のお客様の前をゆつくりと歩きます。綺麗な火が灯ると皆が笑顔になりました。次にN君による「お祈り」です。緊張しながらも沢山のお客様の前でしっかりと祈りをする事が出来ました。「楽器遊び」では退所した小学生のお兄ちゃん



お姉ちゃんが歌をうたってくれその歌に合わせて皆で鈴やマカスを自由に奏でました。ツリーを飾ろう。では好きな飾りを選んで自由に飾り付けを行いました。華やかで綺麗なツリーが完成しました。最後にいよいよサンタさんの登場です。大喜びの子どももいれば怖くて泣き出してしまいう子どももいましたが皆プレゼントを貰いその日一番の笑顔が見られました。

昨年泣いてしまっていた子どもが今年は笑顔でプレゼントを貰いに行く姿を見て、とても成長を感じました。これからの子ども達の成長を側で見守っていきたくと思います。

最後になりましたがご参加下さった皆様、本当に有難うございました。

(日浦 葉奈)

《乳児院 真生乳児院》

子どもと一緒に

栄養士 長友由紀子



「今日はクッキーを作るよ！お手伝いしてくれる？」と声を掛けると、「うん！」「○○ちゃんやりたい！」と元気に返事をしてくれる3歳女児2名。本日の主役です。週に1〜2回、子どもと一緒にお台所のサロンで手作りおやつを作っています。エプロンと三角巾をつけて待っている子ども達を居室に迎えに行き、さあ、今からクッ



キング！手を洗って席に着くと、「これなあに？」「あ、バターや！いいにおい！」と材料に興味深々。バターと小麦粉を混ぜて…と説明すると、「○○ちゃんがやる！」と積極的に手伝ってくれます。「わあ〜ふわふわやあ！」と手触りを気に入った様子で楽しく混ぜていると、だんだんクッキー生地がまとまってきました。次は成形です。コロコロ丸めてギュッと押し、天板に並べて…「これは○○ちゃんの分、これは○○ねーちゃんの分」と同室他児や担当職員を想いながら、真剣な表情でボウルの中からクッキーの赤ちゃんを作りだしていきま



す。サロンの窓には、そんな様子をこっそり見守る職員たちの姿があります。
またある日のお団子づくりでは、「やった！、お団子大好き！お手伝いする！」と作る前からハイテンションの男児。普段は身に着けないエプロンと三角巾を「見て、お花」や「○○ねえちゃんと一緒に」と嬉しそうに見せてくれます。準備が整い、いよいよ作業開始です。さっそく、「お水入れてもいい？」「○○ちゃんもやりたい」と率先して取り組んでいきます。少しずつお水を入れて混ぜていくのですが、個性が出ます。慎重な男児は少しずつ、大胆な女児2人はじゃーと一気にお水を入れます。混ぜ始めは手に引付き「べとべとー」「できない」と苦戦す

るも生地がまとまり大きなお団子ができると「みて！」とにっこり得意げな表情。まん丸のお団子やきりん、恐竜といったユニークな形のお団子までたくさん作っていきます。まるまるお団子を作りながら、お団子の味は何が好き？「みたらしー」「きな粉！」思い思いの味を教えてくださいます。夏の暑さが残る時期です。冷たいフルーツポンチはどうかな？「○○ちゃんみかん好き！」「ジュース！」意見は一致でフルーツポンチに決定です。「もつとお団子食べたかったな」とぼつり。また違う味のお団子作ろうねと声をかけると「うん、作る！」と素敵なお返事をしてくれました。

途中で飽きてしまうことも、つまみ食いばかりでみんなのおやつが無くなってしまいそうなこともありますが、一生懸命取り組む姿や作り終えて居室に戻り「○○ちゃんが作ったよ！」と得意げに職員に伝えている姿を見るととても嬉しくなります。そして何より、子ども達の想像力の豊かさにいつも驚かされます。焼き上がったクッキーを見て「お餅みたい！」と言ったり、またある時は泡だて器からドロツと垂れ落ちるキーキ生地を見て「納豆みたい！」や「へ

びみたいやで！」と言ったりと子どもらしい発想がたくさん聞かれます。
次は何を作ろうか：毎回考えるのが楽しみです。お手伝いありがとう、また作ろうね



笑顔あふれる家庭で 育つ経験を

里親支援専門相談員 岩本 訓子



里親支援専門相談員となり4年目を迎えます。毎年数名の子ども達が里親委託となつています。子ども達も里親の皆さんも、出会いに喜びを感じながらも、戸惑いや不安を抱えながら、交流が始まります。乳児院では、低月齢で自身の思いが言葉で伝えることができない為、代弁者として子どもの気持ちや状況を伝えながら、里親の皆さんの戸惑いや不安に寄り添い、関係を深め共に安定した状態での里親委託へ進めるよう心掛けています。里親委託後に、不調での委託解除、委託までに至らず交流終了になるケースもありました。子ども達や里親の皆さんに、つらい喪失経験を与えてしまい、不調になるまでに「何かできたのではないか」と支援の力不足に落ち込むこともありました。

里親家族から愛情を受け、生活環境に馴染み、たくさんのお社会経験を自信が付き成長した姿や、笑顔あふれる子ども達を見ると嬉しさを感じ、日々の何気ない家庭生活体験という、「地域の中の家庭で育つ」家庭養護の必要性を実感します。

現在、施設の行事案内、家庭訪問や里

親サロンを実施しながら、里親家庭が、地域で孤立しないよう、気軽に話や相談できる関係づくりを心掛けています。里親の方々のニーズに合わせた支援だけでなく、子ども達にとってより良い養育ができるよう、成長や成功体験を共に喜び、一緒に課題に取り組めるチームの一員として、里親家族と信頼関係を築いていきたいと思つています。一人でも多く、笑顔あふれる家庭で育つ経験ができるよう、地域への里親制度の理解、普及を目指していきたいと考えています。



子どものつがやき

★晴れた日にお散歩に行くとお地蔵さんに出会う。一緒に行っていたSちゃんに、「お地蔵さんにお手て合せて挨拶しようか」と提案すると「おててをばっちゃん。いただきますー！」

(Sちゃん・2歳)

★こちよこちよ遊びをすると、ケラケラ笑つて楽しむRくん。こちよこちよしながら「Rくんを食べちゃうぞ〜♪」と言うと限界を迎えたRくんが…

「もうお腹いっぱいー！」
ほんとに食べられちゃつてたみたいだね♪

(Rくん・2歳)

★誕生日ケーキを作っていたAちゃん。トッピング次何にする？と聞くと「白米ー」と。ご飯ものせるの？と聞いてみると、R君が「白桃やろ」とつつこみ、みんな大笑いでした。

(Aちゃん・8歳)

★「R君が王様になったら私ヒツジになるわ」とAちゃん。ヒツジではなくシツジだよ。

(Aちゃん・8歳)



《保育所

真生きりぎり保育園》

いのちについて学ぶ

園長 上杉 徹

今年も一月十七日に全園児で神戸市のシェイクアウト訓練（警報が鳴った後に、姿勢を丸くして頭を守り動かないこと）に参加し、その三分後に再び「大津波警報」が発令され、全園児で上着を着て地域の指定避難場所である神戸市立山の手小学校まで避難しました。十三分五十四秒で0歳児から五歳児まで五十六名と職員十三名の総勢六十九名で無事に避難することができました。今年も炊き出しの豚汁とおにぎりを食べる前にお台所の先生より「いただきます」「ごちそうさまでした」の言葉の意味を学ぶ機会もありました。ペープサートを用いて「果物や野菜」を収穫したり「牛や豚、魚」を捕まえてさばいたり、その食材を運んだり、お店で販売する人、そして調理する人がいるということを伝えました。食事をいただくことは「いのち」をいただくこと、そしてその行為にはたくさん人間が関わっていることを学びました。

「いのち」の大切さを避難訓練と食事の面から学ぶ一日となりました。



子どもの様子
〜二月の園だよりから〜

めろんぐみ（五歳児）
りんごぐみ（四歳児）

二月はごっこあそびの会に向けての取り組みを中心に行っていました。劇あそびで行った「さるかに合戦」は子どもたちが大好きな絵本から選びました。保育教諭が「ことしの劇はさるかに合戦をやるよ！」と言うと、子どもたちは「さるかにさるかにー！」と、とても喜んでる様子でした。台詞や劇中歌は例年に比べてすこし少ない目で

したが、その分動きが多く、特に「なりきり」という部分で今年も、子どもたちにとって、大変な部分が多かったように思います。最初は、なりきる事が少し恥ずかしい様子の子も多かったのですが、さすが、回数を重ねるうちに、なりきる事で生まれる楽しさを、自然に習得していき、自分たちで、なりきる為に必要な事や物を考えて、上手く演じてくれるようになりました。

音楽あそびの「we will rock you」は、めろんぐみの子どもがテレビで流れていた歌を、友だちと一緒に、楽しそうに歌っていた事から始まりました。歌詞の意味は英語で解らないけれど、みんなで一緒に歌う事や、メロディーがとても楽しかったようで「ロッキューー」と、キメポーズをしながら楽しそうに歌っていました。音楽あそびで行うことが決定してからは、自分たちで曲に合わせてどんな動きをするか考えたり、楽器の練習を頑張ったりしました。リズムをりんごぐみ、メロディーをめろんぐみが担当しました。歌「あしたははれる」は、辛い時にそばにいてくれる仲間をテーマとした歌で、数回の練習で歌詞を自然に覚えていくことができたように、今年のもりん

ご・めろんぐみにびつたり曲でした。キーが高く、リズムを取ることが少し難しい曲ですが、とても上手に歌うことができていました。ごっこあそび本番では、いつもに比べると少し緊張している様子もあったが、りんご・めろんぐみでしたが、どのプログラムも本当によく頑張ってくれていました。

四・五歳児担任

岡本 拓馬
福家 静
西村 和子



みかんぐみ（二歳児）

歌が大好きな子どもたち、そして動物が大好きな子どもたちです。今までの子どもたちのあそび姿を見て、「こんなくしゃんのうた」をごっこあそびにしました。毎日、歌をうたったり、病院ごっこをしたりと日々の生活の中にたくさんのお遊びを取り入れました。特に、病院ごっこでは手作りの聴診器と薬を子どもたちに見せると大喜びで、集中してあそんでいました。子どもたち同士で「背中が痛い」「もしもし」と聴診器をあててあそぶ姿はとても微笑ましかったです。友だちと一緒にあそぶことが大好きになってきた子どもたちです。配役の発表をすると、「○○ちゃん、△△くんと一緒に」と同じ役同士で仲間意識も芽生えているような姿もありましたよ。本番では舞台に名前を呼ばれて一人ずつ出るといって大変緊張もしたかと思えます。それぞれ、一人ひとりの大きく成長した姿をたくさん見ていただけたかと感じています。温かい拍手もありがとうございました。

山口芽久末
坂東 遥

おりがういじつにました

寄付並びに児童招待ご芳名

敬称略・五十音順

(二〇一八年八月一日〜二〇一九年一月三十一日)

寄付金

- 安西 真由美
- 石井幼稚園
- いずみ幼稚園
- 稲垣 宜子
- 上杉 徹
- 上西 幸之助
- 大社 貴子
- 岡本 美智子
- 小沢医院 南和光
- 小野 勝江
- 数田 紀久子
- 学校法人玉川聖学院
- 学校法人名古屋学院
- カワタリ電設
- 川村 良幸
- 関西学院 高等部
- 家庭養護促進協会
- 神戸教員合唱団
- 神戸教会 教会学校
- 神戸市立 山の手小学校
- 神戸松蔭女子学院大学
- 神戸昇天教会
- 神戸女子学院子ども会
- 神戸ポートワイズ
- メンズクラブ
- 國府 良
- 児嶋 真希子

- 齊藤 稔
- 清水 美香
- 島谷 直美
- 頌栄幼稚園
- 自立支援援助ホーム
- 子どもの家職員一同
- 菅根 信彦
- 住元 義則・淳子
- 高尾華工房代表
- 人見 明美
- 高森 紀子
- 東洋英知文学院中高
- 富川 和彦
- 中村 悦子
- 中村 淳子
- 難波 美智子
- 西宮中央教会
- 日本基督教団
- 天満教会
- 神戸多聞教会
- 神戸聖愛教会
- 濱田 栄二・理恵
- 林 りえ
- 廣畑 康雄
- 藤井 薫
- 藤井 秀彦
- 藤原 伸夫
- 福島 弘子
- 細見 英信

寄付物品

- 本城 智子
- 宮永 公子
- 宮本 美恵子
- 民谷 清
- 有限会社周和
- 李 福美
- 綿谷 栄子
- 神東社
- 親和女子大学
- 島田 千里
- 清風幼稚園
- 全国シヤンメリー
- 協同組合
- 高橋 ひとみ
- 俵屋 吉富
- チュチュアンナ
- 豊興運輸
- 中筋 達哉
- 日本鏡餅組合
- 日本ベビーフード協議会
- 板東
- ファイリッップモリス ジャパン
- フィールドエスト(株)
- 平野 正敏
- 福原商店
- ふる里
- まほろば
- 水江
- 門司 一徹
- 吉田商店
- 吉田 真弓
- IKEA神戸
- P&G
- Three keeps
- 神戸屋精肉店
- 児嶋 真希子
- コストコ
- 佐藤 茜利
- 芝地 義則

「自立援助ホーム」子供の家

岡本 紀江

自立援助ホーム子供の家では、十代の青年たちが自分でホームに入所する事を決断し、ホームでの生活をスタートしています。仕事をしながら、将来の為に毎日一生懸命頑張っています。ホームに入所するという決断が人生初めての決断という人も少なくありません。誰かに勧められたから入所するのではなく、最終的には自分の意志で入所を決断するのです。このたびは、私が自立援助ホームで共に生活している彼らから学んだ事をお伝えさせて頂こうと思います。

彼らがホームに入所する理由やこれまで歩んできた人生はもちろん、一人ひとり違います。が、ホームに来て仕事をしながら自立を目指す決断した彼らは、仕事やホームでの生活を通して皆さんの事を吸収しています。特に、自分のした事に責任を取らなければならぬという事は簡単ではありません。これまで人や環境のせいにして、自分の嫌なことから逃げ、自分と向き合う事をして来なかつたという事を認め、た彼らは問題を通して自分自身と向き合い、自分の考えや想いを伝えていくことを何回も何回もしながら、良い経験を積み重ね、自信を得、たくましく成長しています。自分がどのような状態であるのかを知り、それを認めた時から驚くほどに確実に成長し前進している姿はとても頼もしく、夢や目標を持つことが出来るようになり、まさに自立に向かって頑張っている彼らを心から誇らしく思います。



以上



子育てホットライン(相談専用)

TEL:078-341-6493

年中無休午前9時～午後6時(緊急の場合は夜間も可)

神戸真生塾 子ども家庭支援センター(ロータリー子どもの家)

Homepage <http://www.rotary-kodomoioe.org/>

facebook <http://www.facebook.com/rotary.kodomoioe>



子育てに困ったら
先ず電話相談!



今年度より始まりました「ハニーハニープロジェクト」では、神戸真生塾で養蜂活動を行っている神戸真ばち(NPO法人B&F神戸真生塾支部)の協力の下、街の花の蜜から生まれた蜂蜜の採蜜体験を通して、住んでいる地域に愛着を持ち、地域活性化へ繋げることを目的に行っています。

地域の親子を対象に、最も蜂蜜が採れる春から夏にかけて計3回行われ、のべ21組50名の方々が参加してくれました。まず始めに、蜂蜜がどのようにして作られるのか、ミツバチの特性や管理方法などをスライドで写真を見ながら学びました。それから蜂蜜がたくさん詰まった巣

子ども家庭支援センターロータリー子どもの家 『ハニーハニープロジェクト始動!』

の板から密蓋だけを丁寧に取り除く作業を実際に体験しました。行う前は難しそうだと緊張していた方々も、実際行ってみると簡単にでき、すぐにコップを掴んで楽しまれていました。その後は、分離器にかけた採れたての蜂蜜を、オリジナルのラベルを貼ったビンに詰めて完成です。採れたての蜂蜜は市販のものでは味わえない美味しさと、自然の恵みを感じられるものでした。



(山本 まさ)

厳しい寒さを乗り越え、桜の木々には小さな芽が少しずつ膨らみ始めています。今回も広報誌「愛」四十一号を皆様にお届けできることをとても嬉しく思うと同時に、日々成長している子どもたちとの輝きや感動を、たくさんの方々と共にできることを幸せに感じます。今後も「愛」のある広報誌がお届けできるよう謹んで励んでいきたいと思っております。

編集後記

(崩田 夏穂)

神戸真生塾苦情処理委員

- 苦情受付担当者 久山 啓 (子ども家庭支援センター ロータリー子どもの家センター長)
- 山口 芽久未(真生きらきら保育園 主管保育教諭)
- 網谷 仁志 (神戸市立自立援助ホーム子供の家主任指導員)
- 苦情解決責任者 上杉 徹 (児童養護施設 神戸真生塾 施設長)
- 数田 紀久子(乳児院 真生乳児院 院長)
- 橋本 美記代(保育所 真生きらきら保育園 園長)
- 竹原 裕昭 (神戸市立自立援助ホーム子供の施設長)
- 第三者委員 森光 規之 (当法人 監事)
- 中村 悦子 (主任児童委員 中央区山手地区民生委員児童委員)
- 苦情受付件数 平成30年 7月から10月末まで 1 件